

タイトル：2024 年度 教育セミナー（第 20 回）

日時：2024 年 9 月 19 日（木）～22 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

矢崎未来（東京外国語大学大学院）

私は本セミナーに参加するにあたり、二つのことを目標としていました。一つ目はアジア・アフリカ言語文化研究所の所員の方々、そしてその他の機関からいらっしゃった先生方の講義を聞き、自分の大学院生活の指針を見つけ出すことです。自分が研究を進めている、中央アジアの近現代史や政治に非常に造詣の深い宇山先生の講義が予定されているということもあり、このセミナーに参加できることを非常に楽しみにしていました。二つ目は東京外大以外からセミナーに参加されている学生の方々と交流を深めることでした。大学院ではほとんど自分一人、あるいは二、三人の学生しか参加しない授業を履修していることもあり、このセミナーへの参加を通して、自分以外の大学院生と交流する貴重な機会を得ることができるだろうと考えていました。

セミナーでは、AA 研所員の方々や宇山先生の講義、また他の受講生の方々による発表を興味深く拝聴することができ、特に受講生による発表は大変刺激になるものばかりでした。私自身の研究対象とは異なるテーマでの発表がほとんどで、全てを深く理解することは難しかったものの、自分と同じように日本でイスラーム圏に関連する研究に取り組んでいる学生の方々が、日々どのように考え、どのように研究を進めているのかということについて深く知ることができました。

発表や講義の時間以外では、学術的なテーマ以外でも会話を弾ませることができ、また大変興味深いお話を聞くこともできました。特に親しくなった方々とはセミナー終了後にも共に食事に出かけたり書店巡りをしたりして、得難い友人を得ることもできました。

以上のように、当初の目標としていた2点はどちらも達成することができ、事前に想定していた以上に多くの学びを得ることができました。また、本セミナーを通して自分の未だ至らない点にも多く気づくことができました。何よりもまず、自分自身が発表を行わなかったという点でかなりパッシブな立ち位置での参加となっていたことが挙げられます。セミナー応募時点では修士論文の構成などが決まりきっておらず、学部の卒業論文から少し進歩した程度だったため発表を見送りました。しかし卒業論文の内容を少しでも発展させて発表していれば、自身の研究についての議論を深める機会となっていたように思えます。また、学部生時代にはあまり意識することのなかったディシプリンについても、発表を聞く中で、あるいは後藤先生の講義の中での所員の先生方の議論を通して深く考えさせられました。

最後に、本セミナーに携わってくださった先生方並びに千葉様、そして受講生の皆様に心より感謝申し上げます。冒頭でも述べたように、私自身は本セミナーへの参加を非常に

楽しみにしておりましたが、想像していたよりもさらに有意義な機会となりました。